

## 国立大学・高専等施設の整備

### ◆予算額（国立大学法人等施設整備費）

令和2年度予算額 36,109百万円（前年度 34,693百万円）  
＜国立大学等 34,009百万円、国立高専 2,099百万円＞

ほか、臨時・特別の措置（防災・減災、国土強靱化関係）43,000百万円  
＜国立大学等 38,136百万円、国立高専 4,864百万円＞

〔他に、財政融資資金 25,904百万円（前年度28,738百万円）〕

【令和元年度補正予算額 32,606百万円】

### ◆内 容

国立大学等の施設は、将来を担う人材の育成の場であるとともに、地方創生やイノベーション創出等教育研究活動を支える重要なインフラである。一方、著しい老朽化の進行により安全面・機能面等で大きな課題が生じている。

このため、「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」（平成28年3月29日文科科学大臣決定）を踏まえ、防災機能強化など安全性の確保、地方創生やSociety5.0の実現に向けた機能強化等への対応など、計画的・重点的な施設整備を推進するとともに、新しい時代にふさわしい国立高等専門学校の機能の高度化・国際化を実現するため、老朽施設の改善整備を推進する。

#### ◆安全・安心な教育研究環境の整備

- ・施設の耐震化及び安全対策（非構造部材の耐震対策含む）
- ・基幹設備の更新等（機能劣化の著しいライフラインの改善）

#### ◆国立大学等の機能強化等への対応

- ・高度化・多様化する教育研究活動へ対応するための整備（先端的な研究施設の整備等を含む）
- ・附属病院の再開発整備（地域医療・先端医療等の拠点）
- ・国立高等専門学校の機能の高度化・国際化へ対応するための整備

# 国立大学法人等施設整備費予算について (令和2年度1次補正予算)

国立大学法人等施設の衛生環境改善 4,550百万円

国立大学等 3,952百万円  
国立高専 598百万円

## ◆概要

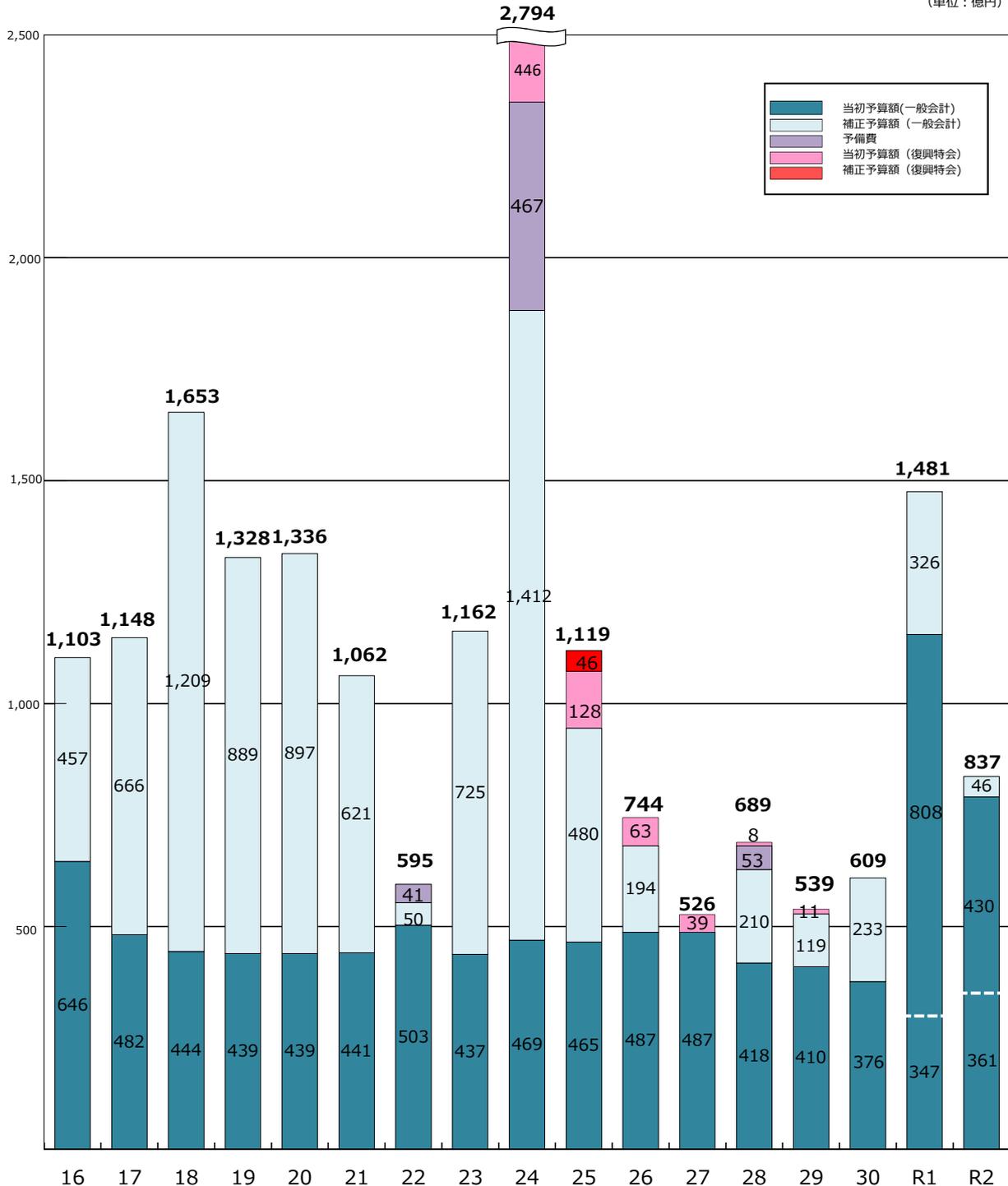
感染拡大防止の観点から、国立大学法人等施設のトイレ等の改修を行うことで、菌やウイルスからの感染リスクを軽減し、安全・安心な教育研究環境を確保する。

## ◆事業内容

国立大学法人等施設の衛生環境を改善するため、より感染リスクの低いトイレの洋式化・乾式化への改修等を実施する。

# 国立大学法人等施設整備費予算額の推移

(単位：億円)



国立大学法人等施設整備5か年計画



◇四捨五入により合計は一致しない場合がある。

◇平成30年度補正予算のうち108億円、令和元年度予算のうち808億円、令和2年度予算のうち430億円は防災・減災、国土強靱化関係予算(臨時・特別の措置)